

保存版

みんなでつくる防災のまち

家庭用防災マニュアル

もしものときに備えて!

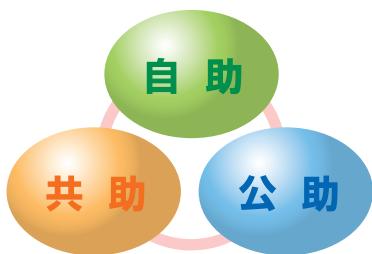


瀬戸内市

はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、これまでに経験したことのない巨大地震と巨大津波により、東北地方の沿岸部を中心として、広範囲に甚大な被害をもたらしました。また、平成24年7月には、九州北部地方を中心に集中豪雨が発生するなど、毎年、全国各地で自然災害が発生しています。

今後、高い確率で発生すると言われている南海トラフ巨大地震をはじめ、様々な災害を乗り越えていくためには、日ごろから正しい防災知識を身につけ、災害に対する備えをしておくことが必要です。また、災害による被害を減らすためには、「自助・共助・公助」の連携が大切です。



- **自助**とは、
住民一人ひとりが自分自身を災害から守ることです。
- **共助**とは、
地域社会がお互いを災害から守ることです。
- **公助**とは、
国・県・市町村など行政が住民を災害から守ることです。

まずは住民のみなさんが「自分たちの地域は自分たちで守る」という防災の基本に立ち返り、自主防災組織の活動や地域の防災行事に積極的に参加して、助け合いの心あふれる安全安心の地域社会をつくっていきましょう。

目 次

●風水害対策

- 1. 台風と集中豪雨 1
- 2. 土砂災害に気をつけよう 4

●地震対策

- 1. 地震から身を守る 6
- 2. 津波から身を守るために 8
- 3. 地震に強いすまいづくりを 9

●自助・共助

- 1. 災害時要援護者にやさしいまちづくり 10

2. 地域の自主防災活動 11

- 3. 月に一度は家族で防災会議を 12
- 4. 非常に役に立つもの 13

●避難場所マップ

- 邑久地域(西部) 14
- 邑久地域(東部) 15
- 牛窓地域 16
- 長船地域 17

1. 台風と集中豪雨

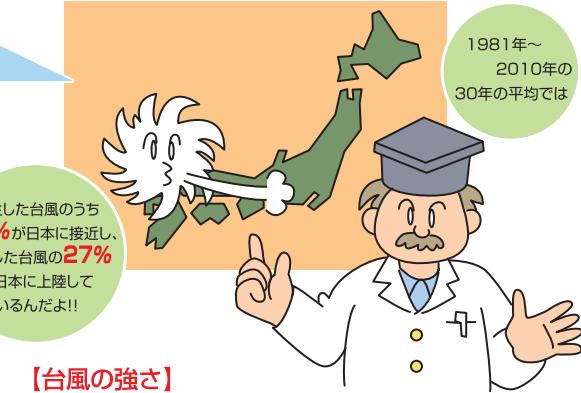
1. 台風の大きさと強さ

大型で強い台風とは？

台風の大きさは「風速15m／秒以上の半径」、強さは「最大風速」で表します。大きな台風ほど広い範囲に影響が及び、強い台風では強風によって中心付近が大きな影響を受けます。

【台風の大きさ】

| 階級 | 風速15m／秒以上の半径 |
|-------------|----------------|
| 大型（大きい） | 500km以上800km未満 |
| 超大型（非常に大きい） | 800km以上 |

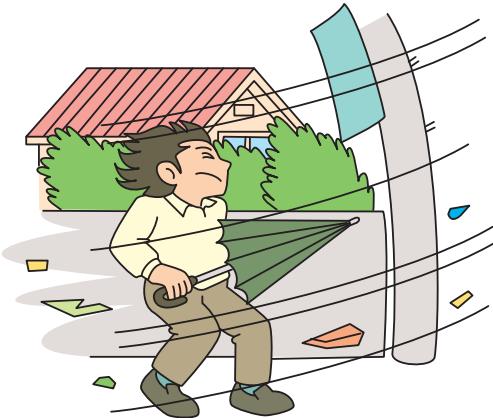


【台風の強さ】

| 階級 | 中心付近の最大風速 |
|-------|--------------|
| 強い | 秒速33m以上44m未満 |
| 非常に強い | 秒速44m以上54m未満 |
| 猛烈な | 秒速54m以上 |

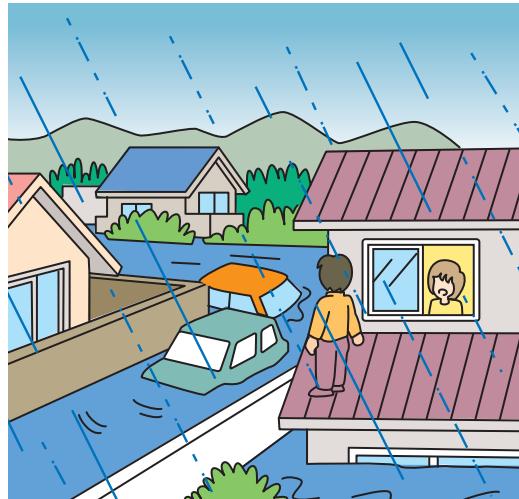
2. 風の強さと吹き方

| 平均風速(m／秒) | 予報用語 | 人への影響 | 屋外・樹木の様子 | 建物の被害 |
|-----------|------------|----------------------|-----------------|-----------------------------------|
| 10～15 | やや強い風 | 風に向かって歩きにくくなる。 | 樹木全体が揺れる。電線が鳴る。 | 取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。 |
| 15～20 | 強い風 | 風に向かって歩けない。転倒する人もいる。 | 小枝が折れる。 | ビニールハウスが壊れ始める。 |
| 20～25 | 非常に強い風(暴風) | しっかりと身体を確保しないと転倒する。 | | 鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。 |
| 25～30 | | 立っていられない。屋外での行動は危険。 | 樹木が根こそぎ倒れ始める。 | ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外装材がはがれ、飛び始める。 |
| 30～ | 猛烈な風 | | | 屋根が飛ばされる。木造住宅の全壊が始まる。 |



3. 雨の強さと降り方

| 1時間雨量(ミリ) | 予報用語 | 人の受けるイメージ | 災害発生状況 |
|-----------|---------|-------------------------|---|
| 10～20 | やや強い雨 | ザーザーと降る。 | この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。 |
| 20～30 | 強い雨 | どしゃ降り。 | 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。 |
| 30～50 | 激しい雨 | バケツをひっくり返したように降る。 | 山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。下水管から雨水があふれる。 |
| 50～80 | 非常に激しい雨 | 滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く。) | マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 |
| 80～ | 猛烈な雨 | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。 | 雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。 |



(注)「風の強さと吹き方」「雨の強さと降り方」は、気象庁作成の解説表より抜粋。被害状況等は、地形等の違いによって異なることがあります。

4. 注意報と警報

注意報は、災害が起こるおそれのあることを注意する予報。警報は、重大な災害が起こるおそれのあることを警告する予報。

大雨や洪水などにはこれらの予報がありますが、基準は地域の実状によって決められており、全国同じというわけではありません。



5. ここがポイント、事前の備え

家庭内では

- ◆気象情報を聞きます。
- ◆状況によって遠出や外出は中止します。
- ◆避難場所について再確認します。
- ◆勤務先にいる家族などと連絡を取り非常時に備えます。
- ◆防災関係機関等の広報をよく聞いておきます。
- ◆家財道具・食料品・ふとん・衣服などの生活に欠かせないものを安全な場所へ移動します。



用意しておくのは

◆飲料水を用意して、断水や濁り水に備えます。乳幼児や病人がいる家庭では特に必要です。

◆懐中電灯を家族数に応じて準備します。また、正しい情報を聞くためにラジオの用意も。予備の電池も十分に。

◆大工道具も用意しましょう。

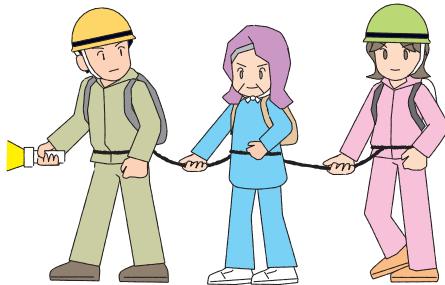


6. 洪水の中を避難するときは

いつも通っている道でも、日常の感覚とはかなり違います。

避難するときは集団で

お互いの体をロープやヒモでしっかりと結んで、体力のある大人が両端を守ります。



災害時要援護者の安全を確保

高齢者や傷病者などは背中に背負います。



足下に注意

先頭を歩く人は、竹か棒を杖にします。側溝の溝などの深みが分かりにくいので、杖を頼りに安全なところを選んで歩きましょう。



子どもには浮き輪を

子どもが避難するときは、浮き輪を持たせると深みにはまらずにすむので便利です。



運動靴で避難

水の深さが50cm以上のときは、無理して避難するより、高いところで救助を待ったほうが安全です。また、長靴は中に水が入って歩きにくいので、運動靴で避難しましょう。



子どもやお年寄りからは目を離さず、手を引くなどの手助けを忘れずに。

●過去の災害を学んでおこう●

風水害や土砂災害等は、気候や地形などが影響して起こるため、災害危険地域を確かめておくことや、前に起きた被害等を長年住んでいる人に聞くなど災害に備えましょう。



2 土砂災害に気をつけよう

危険箇所に指定された区域は、台風や集中豪雨・地震によって大きな被害を受けることが考えられます。地域で十分気をつけましょう。

また、土砂災害は、雨がやんでからも発生することがありますので、油断しないようにしましょう。



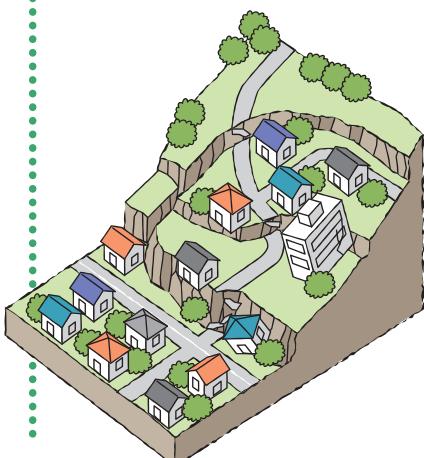
こんな土砂災害に注意しましょう

地すべり

粘土などのすべりやすい層を境に、その上の土がそっくり動き出す現象

〔前ぶれ〕

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没する。
- 沢や井戸の水が濁る。
- かけや斜面から水が噴き出す。

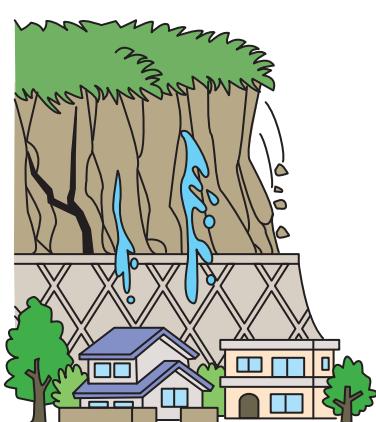


斜面崩壊

がけ崩れ、山崩れなどの現象。突発的かつ急速に起こることが多いのが特徴

〔前ぶれ〕

- 小石がバラバラと落ちてくる。
- がけから水が湧いてくる。
- がけにひび割れができる。

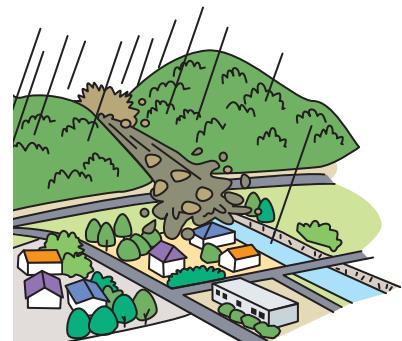


土石流

土石と水が一体となって流れ落ちる現象。
昔から「山津波」とか「鉄砲水」といって恐れられています。

〔前ぶれ〕

- 山鳴りや木立の裂けるような音、ドンといった音がする。
- 雨が降り続いているのに、川の水が急に減り始める。
- 川の水が濁ったり、流木が流れたりする。



梅雨や台風の時期には十分警戒を

長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるため、がけ崩れのほとんどは、梅雨や台風の時期に発生します。

一般的に、1時間に20ミリ以上、又は降り始めから100ミリ以上の雨が続いたら、がけ崩れの危険性が高くなります。梅雨や台風の時期には十分な警戒が必要です。



注意したい場所は？

扇状地



山間部の集中豪雨による土石流に要注意。
早めに避難の準備を。

造成地



地盤がゆるみ崩れる危険が。水抜き穴から濁り水が出始めたら要注意。

山岳地帯



集中豪雨や地震による山崩れに用心したい。
特に、木の少ない山間部は、土石流に対する警戒が必要。

河川敷



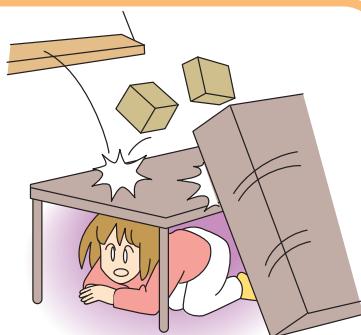
昔、河川敷だったところや河川の流域は、
洪水についての対策を万全に。

1 地震から身を守る

1

まず、身の安全を

- テーブルやベッドなど頑丈な家具の下にもぐりこみます。
- 座布団やクッションで頭をカバーします。



2

すばやく火の始末

- 「火を消せ！」と大声で叫ぶことも大切です。
- 普段から、習慣づけが必要です。



3

非常脱出口を確保

- 特に鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、ドアなどを閉めたままにしておくと、変形して開かなくなることがあります。



4

火が出たら 119→すぐ消火

119



- 119番通報は、あわてずに、落ち着いて。
- 火の小さいうちに、勇気をもって初期消火に当たります。（火が天井面に移る前に）
- 消火器は必ず設置しておきましょう。



狭い路地やブロック塀、
がけや川べりには近づ
かない

5



山崩れ、がけ崩れに注意

- 居住地の自然環境を良く知つておくことが大切です。
- がけ崩れ等により、危険が差し迫れば避難勧告・指示などが発令されます。行政の広報とマスコミの情報に注意してください。

6



7

津波に注意

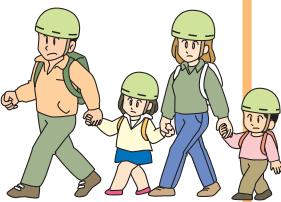
- 海岸の近くで地震を感じたら、又は、揺れがなくてても津波警報が発表されたら高台に逃げます。



8

避難は徒歩、荷物は最小限度に

- 避難先をメモで貼り出しておきます。
- 住んでいる所に危険が差し迫ったときは、避難を開始します。それまでは、消火活動等のできる人は、消火作業を行います。



9

協力し合って消火・救出・救護

- お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合いましょう。



10

正しい情報をつかみ、デマに惑わされない

- うわさやデマに振り回されないようにしましょう。
- 地震直後に、携帯ラジオがない場合、マイカーのカラーラジオを利用するのも一つの方法です。



地震の揺れと被害想定

震度0

人は揺れを感じません。



震度1

屋内にいる人で揺れを感じる人もいます。



震度2

屋内にいる人の多くが揺れを感じます。



震度3

棚の食器が音を立てることがあります。



震度4

眠っている人のほとんどが目を覚まします。歩行中の人も揺れを感じます。



震度5弱

家具が動いたり、食器や本が落ち、窓ガラスが割れることもあります。



震度5強

タンスなどの重い家具が倒れたり、自動販売機が倒れたりすることもあります。



震度6弱

立っていることが難しく、壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなります。



震度6強

は這わないと動くことができません。重い家具のほとんどが倒れ、戸が外れて飛びます。



震度7

自分の意思で行動できなくなります。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生します。

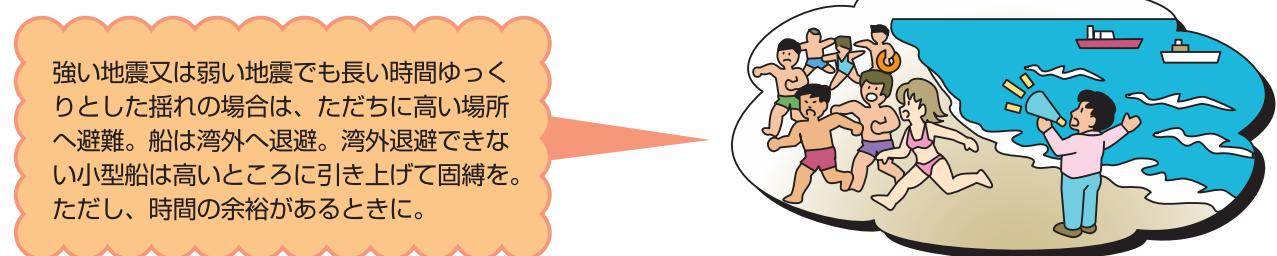
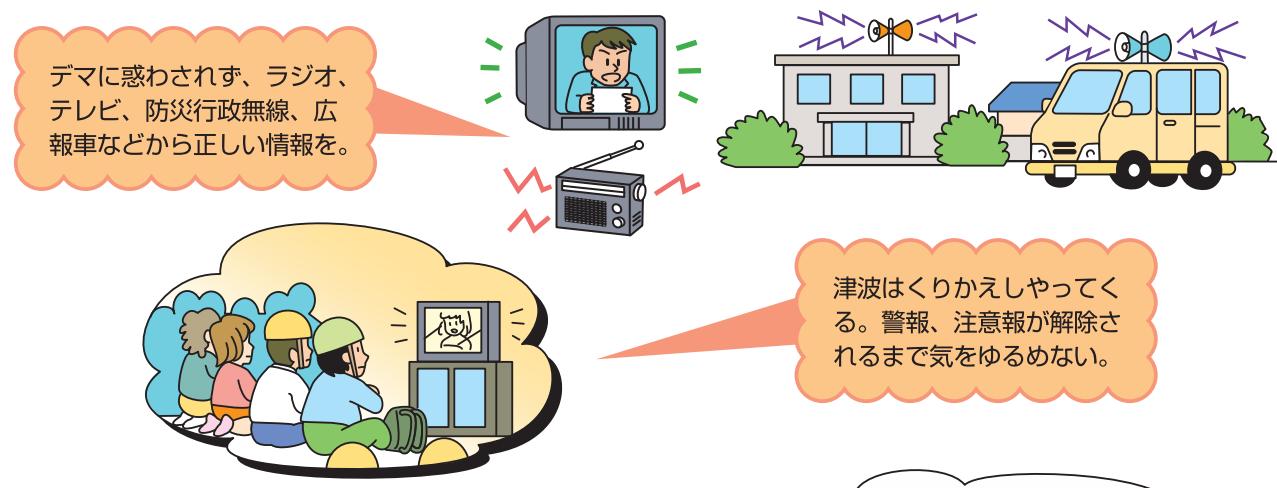


2 津波から身を守るために

一瞬にして襲いかかる大津波!! 地震がおきたら高い場所へ

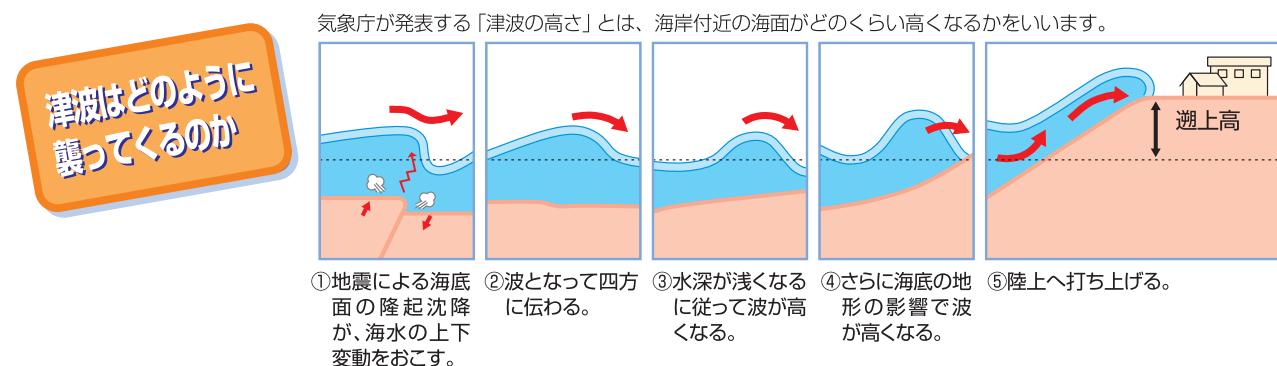
海底で地震がおきると、海底の地形が急に変わり、海水が大きく押し上げられたり沈み込んだりするために、津波がおきることがあります。

この波の高さは水深が浅くなるにつれて増し、湾内に入るとさらに高くなります。ときには数十mにもなり、大きな被害をもたらすこともありますので、ただちに高い場所への避難が必要です。



| | | | |
|-----------------------|--------------------|-------------------------|---|
| 津波のスピードは ジェット機と同じ! | 引き潮がなくても 津波はくる! | 津波の高さは 想像を絶する! | 津波警報・注意報は |
| | | | 日本の沿岸でおこる大地震による津波警報・注意報は、地震発生後約3分程度で発表されます。 |
| ● 警報・注意報の分類 | ● 大地震の場合の表現 | ● 津波の高さ予想の区分 | |
| 津波警報(大津波) | 巨大 | 10m~ 5m~10m 3m~5m | |
| 津波警報(津波) | 高い | 1m~3m | |
| 津波注意報 | — | 20cm~1m | |

※平成25年3月変更



3 地震に強いすまいづくりを

すまい方を工夫する

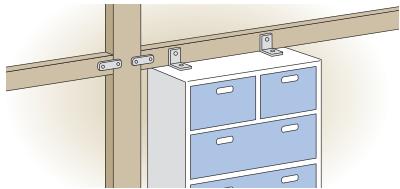
部屋の模様替えや大掃除のときのちょっとした工夫が、あなたや家族の命を守ることにつながります。

家具や家電製品を固定しましょう

金具で家具を固定します

L型金具

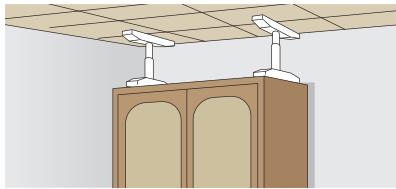
下地などの強度を確認の上、L型金具で固定するのが、最も効果的です。



つっぱり棒で固定します

つっぱり棒

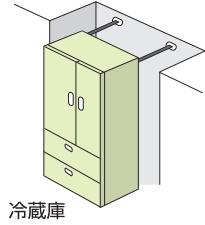
天井がしっかりとしていて、すきまが小さないと効果が期待できません。



ベルトなどで固定します

壁に寄せて固定

壁に寄せて固定



転倒防止用ベルト

転倒防止用ベルトなどで固定します。

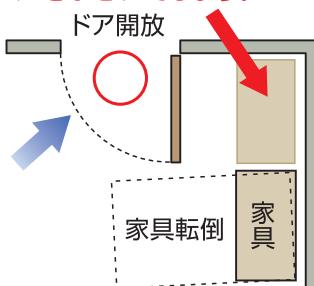
就寝場所や避難路を考えましょう

家具などが倒れてきても安全な位置に寝ます



家具などの転倒に注意します

ここに家具を置くと転倒してドアをぶさいでしまう。



すまいの手入れが大切です

日常の点検や補修を行います

日常の点検・補修をしっかりとすれば、家の傷みを抑え、腐朽やシロアリの被害などを早く発見できます。



自分のすまいを知る

阪神・淡路大震災では、死者の8割以上が建物や家具類等の倒壊による圧迫死でした。中でも、昭和56年5月以前の新耐震基準以前に建築された建物による被害は、深刻でした。



住宅の耐震性が家族の生死を左右します

自分のすまいの安全性を把握し、今後の判断基準とするため、まず、耐震診断を受けましょう。

木造住宅の耐震診断

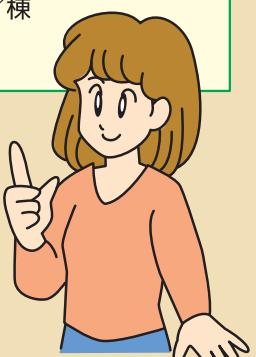
県が認定登録した建築士「岡山県木造住宅耐震診断員」があなたのすまいを調査します。

耐震診断の料金

《一般診断》……………42,000円／棟
住宅の耐震診断をします。

昭和56年以前に建てた木造住宅の耐震診断には、費用の約2／3が補助される制度があります。

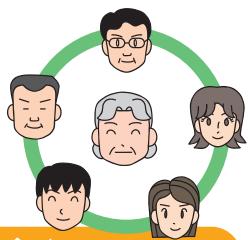
※診断料金及び補助率は平成25年3月現在のものです。



お申込み・ご相談は、建設課まで

1. 災害時要援護者にやさしいまちづくり

年齢や障害、言葉の壁などによって、災害発生時の対応に何らかの手助けが必要な人を災害時要援護者といいます。近年の風水害や地震では犠牲者の多くを高齢者が占めています。日ごろから災害時要援護者に対する支援について考え、地域が一丸となって災害時要援護者にやさしいまちづくりに取り組んでいきましょう。

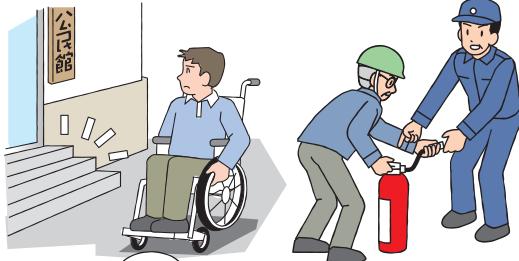


● 災害時要援護者が安心して暮らせる地域づくり

要援護者の身になって防災対策を

要援護の人たちに対して、情報伝達の際にはどうやったら情報が正確に伝わるのか、避難誘導等を行う際にはどんな支障があるのかなど、要援護者の立場に立って考え、防災環境や防災体制を改善していきましょう。

そのためには、要援護の方にも積極的に防災訓練に参加していくことが大切です。



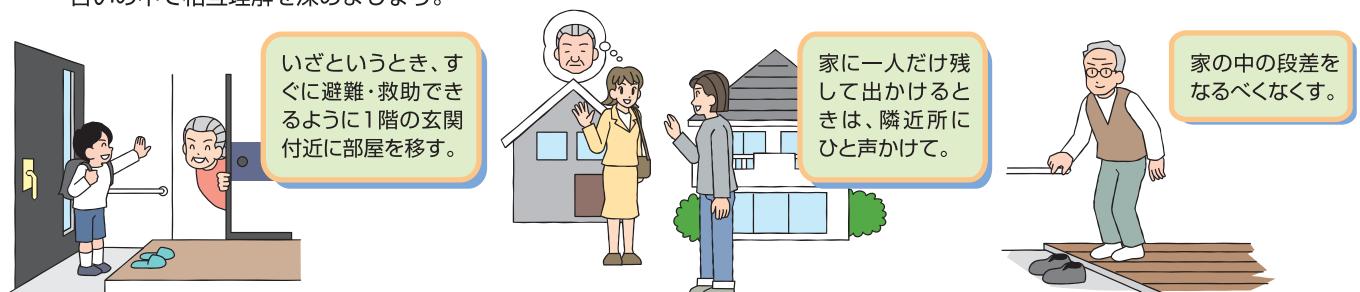
日ごろから地域でのコミュニケーションを

日常の支援活動こそが、要援護者対策そのものといつてもいいでしょう。日ごろからコミュニケーションをもち、プライバシーや個人情報に配慮しつつ、地域ぐるみでの支援体制を整えましょう。



家庭の中での習慣づけを

家庭内のこととすることで、要援護者対策はできるものです。また、隣近所の協力は不可欠ですから、普段の付き合いの中で相互理解を深めましょう。



● 要援護者を避難誘導する際のポイント

災害発生という非常時には、身体・言語に不自由のある人ほど、状況の変化に対してより大きな不安を抱くものです。そんなときこそ、思いやりの心で接し、その人の立場に立った支援を心がけましょう。



高齢者・傷病者

- ・複数の人で対応。
- ・緊急時には、背負ったり、担架を使ったりする。

目が不自由な人

- ・杖を持つ手と反対側の肘のあたりに軽く触れ、ゆっくりと誘導。
- ・誘導先の障害物や道路状況等を説明しながら進む。

耳が不自由な人

- ・口を大きく動かし、はっきりと話す。
- ・筆談、身ぶりなどで伝える。

車いすの人

- ・階段では二人以上で支援を。上りは前向き、下りは後向きで。
- ・救援者が一人しかいないときは、背負う。

外国人

- ・まずは身ぶり手ぶりで意思の疎通を図る。
- ・外国語が分からぬからといって、逃げてしまわないこと。孤立させないことが大切。

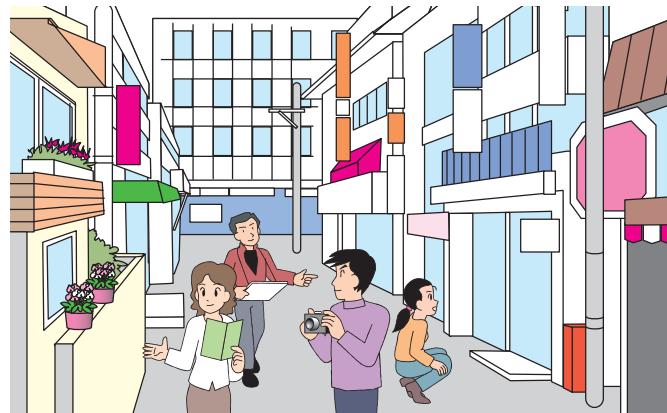
2 地域の自主防災活動

災害時に頼りになるのは、何といっても隣近所、職場コミュニティの仲間です。日ごろからみんなで防災について考え、そして行動することが大切です。

「私たちの地域は私たちが守る」。そのために、自治会などを単位として自主防災組織を結成しましょう。そして、次のような活動をしてみませんか。

● まちに出よう

災害時に危険だと思われる所、モノ、逆に安全な所や役立つモノ、ヒトなど、みんなで見つけましょう。そしてカメラや地図に記録しておきましょう。子どもの目線で見たり、ときどき見上げてみると、新しい発見があると思います。



● 手づくり防災マップを作成しよう

班ごとにチェックしてきた結果を地図上にまとめてみましょう。カラーペンや付箋紙などをうまく使って、分かりやすい地図を作りましょう。写真は地図の余白に貼り付けるなど、工夫しましょう。



● 防災訓練をしよう

でき上がった地図をもとに、まちの防災上の課題を検討し、まち独自の防災訓練をしましょう。

うまくいかなくて当たり前。そこから、また新たな課題が見えてくるはずです。



3月に一度は家族で防災会議を

家族の防災意識を高めるため家庭で防災会議を開きましょう。定期的な話し合いの積み重ねで、いざというときには適切な行動がとれるようになります。また、家族単位だけでなく、隣近所での合同会議がもてれば一層心強いですね。



家族それぞれの避難場所を決めておく

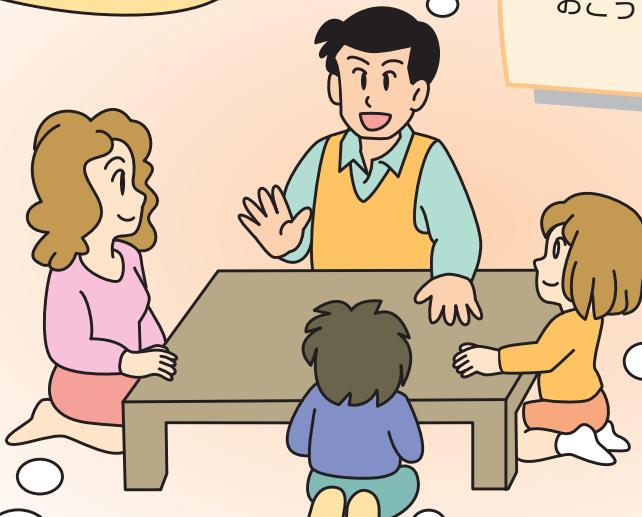
防災会議のテーマ

非常時の家族同士の連絡方法

家族がバラバラに離れているときに発生したら

電話は不通。交通網はマヒの中での連絡方法
避難場所とそこへ行く道順など

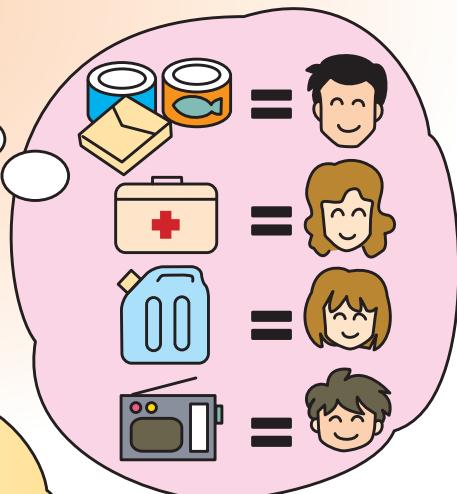
家族防災マニュアルを作成しておこう



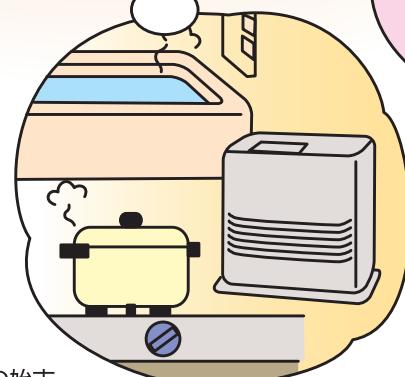
おち合う場所を決めておく



火の始末
(担当を決めておく)



非常持ち出し品の分担を決めておく



※これらすべてを家族全員で話し合い、
万一の災害に備えたいものです。

4 非常時に役に立つもの

いざというときは、ただちに避難しなければならないこともあります。そんなときに備えて、あなたの家にも非常持ち出し品を常備しておきましょう。災害が発生したとき最初に持ち出す一次持ち出し品と、その後の数日間を自活するための二次持ち出し品に分けて用意すれば万全です。

一次持ち出し品

避難するとき最初に持ち出すもの。食料や水は少なくとも3日分は用意しましょう。しかし、あまり欲ばりすぎると重量オーバーになり、避難にも支障があるので注意を。

二次持ち出し品

救援物資が届くまでの数日間を自活するためのもの。できれば5日分程度は用意しましょう。水や食料などは少し多めにストックしておくとよいでしょう。

ここがポイント! 非常持ち出し品の準備

●一人1個の非常持ち出し袋を用意する

家族みんなで分担すれば重量も軽くできます。



●分散して保管する

家具が倒れ、非常持ち出し袋が取り出せない場合があります。何箇所かに分散して保管しましょう。

●車のトランクにも

車の運転中に地震が発生した場合に備えましょう。



●定期的に中身を点検する

半年に1回程度、中身をチェックし、必要に応じて入れ替えましょう。

一次持ち出し品リスト

●懐中電灯

停電時や夜間に移動する際の必需品。予備電池・電球もあわせて準備。



●携帯ラジオ

AM・FM両方を聴けるものを用意。予備電池も多めに準備。



●救急医薬品

消毒薬・包帯・絆創膏・かぜ薬・解熱剤・胃腸薬など。常備薬があれば、必ず準備。



●非常食及び飲料水

調理の不要な缶詰・乾パンなど、3日分を用意。水はペットボトルで準備を。



●ヘルメット・軍手・衣類

一人ひとりに準備。着替えの衣類は、長袖・長ズボンを用意。



●現金・貴重品

現金には、公衆電話の活用を考慮して、10円硬貨も入れておくこと。貴重品は、預金通帳・健康保険証・免許証のコピーや印鑑など。



●生活用品

ライター・マッチ・ろうそく・ナイフ・缶切り・ビニール袋・ティッシュ・ウェットティッシュ・ビニールシート・生理用品など。乳幼児やお年寄りがいる家族は、ほ乳瓶・粉ミルク・紙おむつなども忘れない。



二次持ち出し品リスト

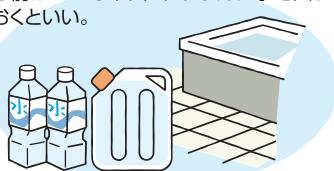
●非常用食料

そのまま又は簡単な調理で食べられるものが便利。缶詰・レトルト食品・カップ麺・栄養補助食品など。定期的に期限を確認し、いつも新鮮なものを补充しておく。



●水

飲料用だけでなく生活用の水の確保も忘れずに。生活用としては一人1日4リットル程度は確保したい。風呂や洗濯機の水は抜かず、寝る前はいつもポットややかんに水を入れておくといい。



●生活用品

燃料は短期間なら卓上コンロや固体燃料で十分。ガスボンベも多めに用意を。その他、洗面具・トイレットペーパー・生理用品・キッチン用ラップ・新聞紙など。



●その他

・ビニールシート ・ゴミ袋 ・携帯トイレ ・使い捨てカイロ ・厚底スリッパ ・液体ハミガキ
・ドライシャンプー ・ガムテープ ・地図 ・さらし ・筆記用具(マジックなど)



*災害の状況によりましては避難所として機能しなくなる施設もあります。その際は、他の安全な場所へ移動してください。

| 避難場所 | 所在地 電話番号 | 所在地 電話番号 |
|-----------------|--------------------------|-------------------------|
| 邑久小学校 | 邑久町山田庄610 0922-1231 | 邑久町尾張465-1 0922-3761 |
| 邑久中学校 | 邑久町山手2 0922-0016 | 邑久町山手 0922-0017 |
| 中央公民館 | 邑久町尾張465-1 0922-3761 | 邑久町山手 0922-0017 |
| 邑久保育園 | 邑久町尾張1159-1 0922-0089 | 邑久町下笠加 0922-0089 |
| 福田コミュニティセンター | 邑久町福元272-2 — | 邑久町福元549 0924-0259 |
| 福田地域コミュニティセンター | 邑久町福元671-1 0922-0457 | 邑久町福元671-1 0922-0457 |
| 福田保育園 | 邑久町福元487-4 — | 邑久町宗三 0922-0457 |
| 今城地域コミュニティセンター | 邑久町向山36-1 — | 邑久町大富 0922-0425 |
| 今城小学校 | 邑久町向山25 0926-942-2025 | 邑久町向山 0926-942-2025 |
| 豊原コミュニティセンター | 邑久町豊原998-1 — | 邑久町豊原 0922-2370-1 |
| 本庄コミュニティセンター | 邑久町本庄1711-3 0922-2211 | 邑久町大富 0922-2370-1 |
| 邑久スポーツ公園 | 邑久町上笠加125-1 — | 邑久町豊原 0922-2370-1 |
| 笠加コミュニティセンター | 邑久町本庄1795 0922-1333 | 邑久町豊原101-1 0922-1212 |
| 瀬戸内市消防本部 | 邑久町尾張404 0922-0017 | 豊原つどいの館 0922-1345 |
| JA岡山東部第4農経済センター | 邑久町豊原101-1 0922-1212 | — |
| 福田山圓福寺 | 邑久町豆田875 0922-0539 | 邑久町東谷 — |

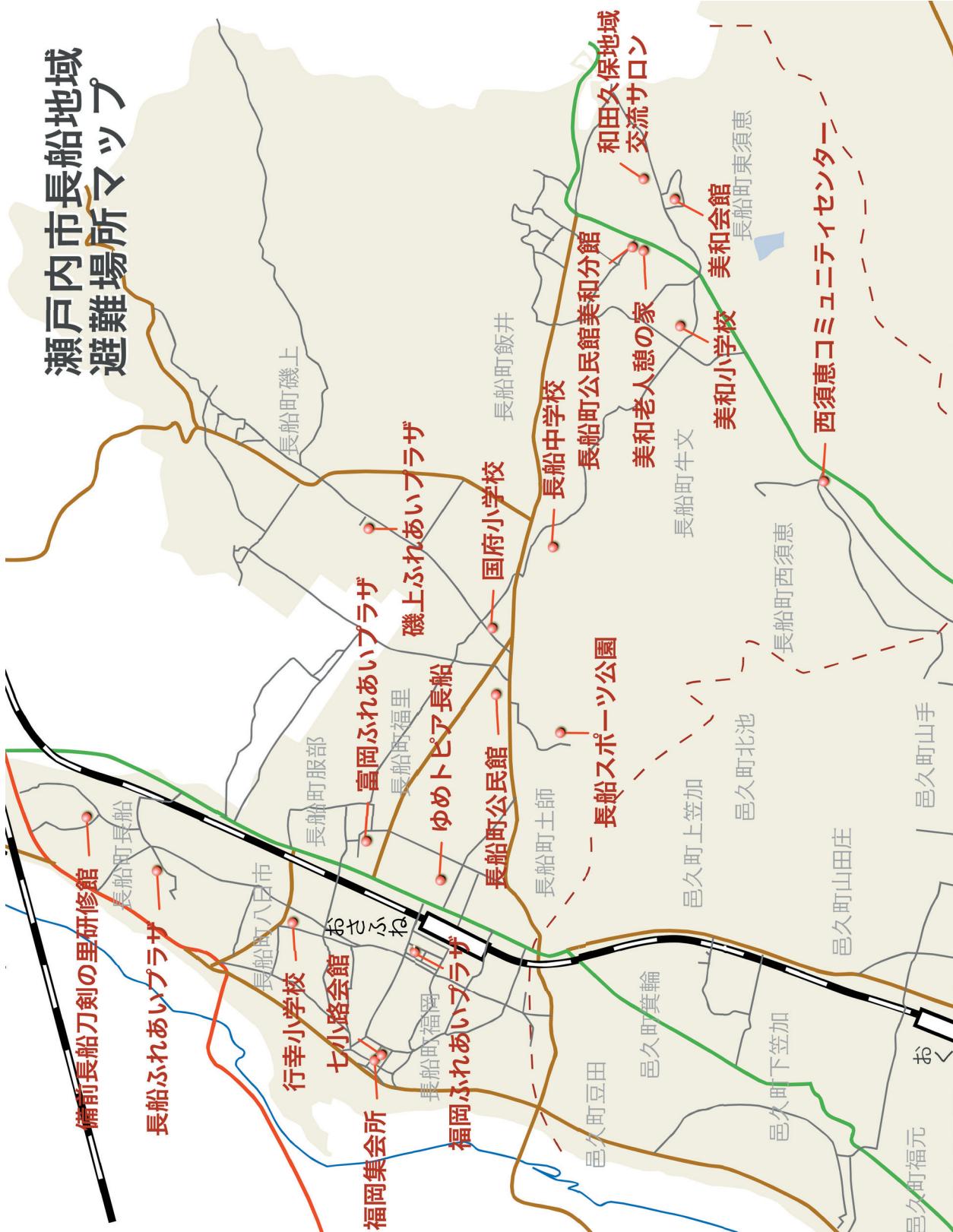




| 避難場所 | 所在地 | 電話番号 |
|-------------------|--------------|----------|
| 牛窓町公民館 | 牛窓町牛窓910 | 034-3431 |
| 牛窓中学校 | 牛窓町牛窓6446 | 034-2048 |
| 牛窓東小学校 | 牛窓町牛窓4433 | 034-2029 |
| 牛窓西小学校 | 牛窓町鹿忍2166 | 034-2409 |
| 牛窓北小学校 | 牛窓町長浜3677 | 034-2520 |
| 牛窓東幼稚園 | 牛窓町牛窓4433 | 034-2104 |
| 牛窓西幼稚園 | 牛窓町鹿忍2205 | 034-3687 |
| 牛窓北幼稚園 | 牛窓町長浜3677 | 034-3742 |
| 牛窓体育館 | 牛窓町牛窓4444 | 034-4923 |
| 牛窓町公民館牛窓分館 | 牛窓町牛窓3056 | 034-2213 |
| 牛窓町公民館鹿忍分館 | 牛窓町鹿忍321 | 034-4263 |
| 牛窓町公民館長浜分館 | 牛窓町長浜3490-1 | 034-4264 |
| 本蓮寺 | 牛窓町牛窓3194 | 034-2014 |
| 妙福寺 | 牛窓町牛窓2718 | 034-2760 |
| 金剛頂寺 | 牛窓町牛窓4033 | 034-2157 |
| (財)服部養老会永楽学園 | 牛窓町牛窓3933 | 034-4260 |
| 牛窓綾浦コミュニティ活性化センター | 牛窓町牛窓4180-4 | 034-5034 |
| クリーンセンターかもめ | 牛窓町牛窓3228 | 034-3475 |
| 前島コミュニティハウス | 前島町牛窓5888-27 | — |
| 千手コミュニティハウス | 牛窓町千手304-1 | 034-5919 |
| 野上クラブ | 牛窓町鹿忍2402 | — |

*災害の状況によっては避難所として機能しなくなる施設もあります。その際は、他の安全な場所へ移動してください。

瀬戸内市長船地域 避難場所マップ



| 避難場所 | 所在地 | 電話番号 |
|---------------|-------------------------------|------|
| 行幸小学校 | 長船町服部163 ☎26-2258 | |
| 国府小学校 | 長船町福里833 ☎26-2015 | |
| 長船町公民館 | 長船町土師1175 ☎26-2501 | |
| 長船町中学校 | 長船町牛文1010 ☎26-2029 | |
| 美和会館 | 長船町東須恵452 ☎26-3594 | |
| 美和小学校 | 長船町東須恵1666-1 ☎26-2051 | |
| 長船スポート公園 | 長船町土師2068-2 ☎26-4538 | |
| 長船町公民館美和分館 | 長船町飯井190-1 ☎26-4866 | |
| 美和老人憩の家 | 長船町飯井192-1 ☎26-4455 | |
| ゆめトピア長船 | 長船町土師277-4 ☎26-8001 | |
| 備前長船刀剣の里研修館 | 長船町土師966 ☎0869-66-7767 | |
| 福岡集会所 | 長船町福岡833 | |
| 長船ふれあいプラザ | 長船町長船575-124 ☎0869-66-6002 | |
| 福岡ふれあいプラザ | 長船町福岡500-158 ☎26-2356 | |
| 磯上ふれあいプラザ | 長船町福里589-9 ☎26-5546 | |
| 和田久保地域交流サロン | 長船町飯井946 ☎26-9701 | |
| 七小路会館 | 長船町福岡831 ☎26-5021 | |
| 福岡ふれあいプラザ | 長船町服部565-2 ☎26-6922 | |
| 西須恵コミュニティセンター | 長船町西須恵988-5 ☎26-5216 | |

※災害の状況によっては避難所として機能しなくなる施設もあります。その際は、他の安全な場所へ移動してください。

わが家の防災メモ

| わが家の住所 （〒　　） 住所 | TEL | | | | |
|-----------------------|-----|------|------------|-------|------|
| 家族の連絡先 | 氏名 | 生年月日 | 血液型 | 緊急連絡先 | 避難場所 |
| | | ・・ | 型 RH +- | ☎ | |
| | | ・・ | 型 RH +- | ☎ | |
| | | ・・ | 型 RH +- | ☎ | |
| | | ・・ | 型 RH +- | ☎ | |
| | | ・・ | 型 RH +- | ☎ | |

■親戚・知人の連絡先

| 氏名 | 電話番号 | 住所 | メモ 家族との関係など |
|----|------|----|-------------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

緊急・災害情報を緊急速報メールで配信します

災害などの緊急時において、瀬戸内市が発表する避難勧告や、津波警報・注意報などの緊急情報、NTTドコモ・au・ソフトバンクが提供する緊急速報メールサービスを利用して、瀬戸内市内の方に配信します。緊急速報メールの受信にかかる通話料・情報料は無料です。

※対応機種及び受信設定の方法は、それぞれのホームページでお確かめください。

提供する情報

- 避難準備情報
- 避難勧告
- 避難指示
- 津波関係警報
- 国民保護情報
- その他緊急情報

災害用伝言ダイヤル「171」の使用方法

伝言の録音方法

- ① **171**にダイヤルする
- ② 録音の場合 **1**を押す
- ③ 電話番号を市外局番から押す
- ④ 30秒以内に録音する

伝言の再生方法

- ① **171**にダイヤルする
- ② 再生の場合 **2**を押す
- ③ 電話番号を市外局番から押す
- ④ 再生される

瀬戸内市メールマガジン (携帯電話用)を配信します

瀬戸内市では『災害情報』、『最新トピックス』、『市からのお知らせ』などホットな情報をメールマガジンで配信します。以下のページから登録できますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

メールマガジン登録ページのアドレス

<http://www.city.setouchi.lg.jp/i/magazine.html>



QRコード(二次元コード)の読み取りができる
携帯電話をお持ちの方は、左の画像から
アクセスできます。

防災行政無線の放送内容をもう一度聞きたいときは

電話による防災行政無線放送の自動再生を行っています。
以下の電話番号から放送内容を確認してください。

0869-22-0699

0869-22-0032